

# 高萩市で水田高収益化現地検討会を開催しました

米の需要が減少する中、水田への園芸作物や畑作物を導入することは、水田農業経営の安定につながることを期待され、県北中山間地域においては、果樹・花木等の導入が少しずつ進んでいます。

今回、水田へ高収益作物を導入する取組を推進するため、水田において食用ほおずき等で有機栽培に取り組んでいる高萩市の「結農美WORKS」の事例とともに、高収益作物導入に係る支援制度及び中山間地域農業基盤整備促進事業について紹介しました。

## －水田高収益化現地検討会－

- ◇ 日時： 令和5年7月26日（水）午前10時～
- ◇ 場所： 高萩市上君田生活改善センターおよび現地ほ場
- ◇ 主催： 茨城県県北農林事務所  
（共催） 高萩市農業再生協議会  
茨城県農業再生協議会
- ◇ 参加者： 生産者、関係団体など54名



## 【結農美WORKS 笹川雄也氏 プロフィール】

- 長野県での研修中に食用ほおずきの栽培を経験。高萩市で食用ほおずきに関わる地域おこし協力隊を募集していることを知り高萩市へ移住。
- 2017年に「結農美WORKS」を立ち上げ、食用ほおずきを主体に年間50品目の有機農産物の生産・加工品の製造・販売を開始。
- 2020年には有機JAS認証を取得。



## 【水田への高収益作物の導入経緯、苦労した点】

- 高萩市の山間部には畑地が少なく、規模を拡大するために水田を活用。
- 農業を始めた当初は、基盤整備等の支援制度の情報が届かず、自力で排水対策を行っていた。野菜に向く土壌にするためには、何年もかけて土壌改良が必要。



## 【排水対策実施後の状況】

- 暗渠等の設置により、降雨後の排水性が改善され、作物の生育は順調。

## 【今後の方向性と課題】

- 空いている農地があっても、スムーズに借りられない現状がある。耕作放棄地を増やさないためにも、農地の確保に向けた支援をお願いしたい。



県北中山間地域においても、水田高収益化の取組が少しずつ進んでおります。

現地検討会でいただいたご意見等も参考に、関係機関と連携を図り、一層取組を推進してまいります。